

現 行	改正案	備 考
<p>1. 札幌市における円山動物園の役割(1) 札幌市の環境教育の拠点</p> <p>円山動物園は、市民一人ひとりが身近な場所で環境問題と自らの日常生活とのつながりに気づき、地球環境を守るための具体的な行動を起こしていけるよう、環境教育の拠点としての役割を果たす。</p> <p>絶滅の危機に瀕した動物たちの飼育・展示を通じて、その動物たちの生息域における地球環境問題を訪れた市民にメッセージとして伝える。</p> <p>また、円山動物園内における自然エネルギーの活用や資源の循環により、環境負荷軽減を図り、その成果を分かりやすく伝える解説や展示を行う。</p> <p>このようにして、動物と施設の両面において環境に対するメッセージを発信する総合的な環境教育の拠点となる。</p>	<p>1. 札幌市の環境教育の拠点としての役割</p> <p>(1)計画内容</p> <p>円山動物園は、市民一人ひとりが身近な場所で環境問題と自らの日常生活とのつながりに気づき、地球環境を守るための具体的な行動を起こしていけるよう、環境教育の拠点としての役割を果たします。</p> <p>専門的な知識を有し、活動を行っている機関、大学、NPO等とも連携しながら、絶滅の危機に瀕した動物たちの飼育・展示・イベントを実施し、それらを通じて、動物たちの生息域が抱える環境問題を来園者に伝えます。</p> <p>また、園内施設で自然エネルギーを活用し、また、資源の循環に努めることによって環境負荷軽減を図るとともに、解説や展示によって効果や意義を分かりやすく伝えます。</p> <p>このようにして、動物展示と施設の両面において環境保全の大切さを来園者に対しメッセージとして発信する総合的な環境教育の拠点となることを目指します。</p>	<p>・専門機関等の連携による取組を展開していくことを追記</p>
	<p>(2)成果指標</p> <p>平成 28 年度までに環境教育プログラムを毎年 10 本実施し、満足度 80%を目指します。</p>	
<p>(1) 環境教育プログラムの策定</p> <p>円山動物園において実施する環境教育の様々な取組を体系的に整理し、より効果的に環境教育を推進していった</p>	<p>(3)アクションプラン</p> <p>① 環境教育プログラムの推進</p> <p>専門機関の意見を聴取しつつ、参加者の理解度を確認しながら、より効果的に円山動物園の様々な環境教育の取組</p>	<p>・50 千円/年（経常）</p> <p>・専門機関の意見聴取に基づくプログラム化、総合学習の受入れ等の継続実施を</p>

現 行	改正案	備 考
<p>めのプログラムを策定する。(20年度)</p> <p>〈今後の展開事例〉</p> <p>オオワシ、ニホンザリガニなどの「北海道の野生動物復元プロジェクト」における環境教育の実施</p> <p>省エネ化を図り、動物、施設、メッセージをセットにした総合的な環境教育の実施</p>	<p>をプログラム化し、実施します。</p> <p>環境教育の推進の観点から、ホームページでの情報提供、総合学習等の受入れ、各獣舎における説明看板の設置、動物園だよりの発行について、改善を加えながら継続していきます。</p>	<p>明記</p>
<p>(2) アースデイの開催</p> <p>世界的な環境イベントであるアースデイ（地球のことを考え行動する日）を、市民・企業・NPOなどと共同で開催し、地球環境を考えるきっかけづくりとする。(19年度～)</p>	<p>② アースデーの開催</p> <p>アースデーはNPO主体のイベントであり、事業の継続性が保証されないため、⑦に統合</p>	<p>・項目廃止</p>
<p>(3) 環境メッセージを伝える展示・看板・広報の充実</p> <p>動物達が抱える地球規模での環境問題を各動物舎の説明看板、体験メニューにおける解説、動物園だより等の広報物などでより充実を図る。(19年度～)</p>	<p>③ 環境メッセージを伝える展示・看板・広報の充実</p> <p>各動物舎の説明看板、体験メニューにおける解説、動物園だより等の広報物などを通じて、動物たちを取り巻く地球規模での環境問題を分かりやすく伝えます。</p> <p>個体ごとの特徴等を説明する看板について、半年に1回程度更新し、最新の情報を伝えます。</p>	<p>・だよりは1①に掲載</p> <p>・ドキドキ体験は4②に掲載</p>
<p>(4) 環境教育に携わる人材育成の拠点活動</p> <p>環境教育が普及するには指導者となる人材を育成することが重要であるため、環境教育の指導者講習会など、動物園を拠点とした支援活動を行う。(19年度～)</p> <p>〈展開事例〉</p> <p>プロジェクトWILD、プロジェクトWET指導者講習会、ネイチャーゲーム指導者講習会、学生等研修受入れ、環境教育教材の共同開発</p>	<p>④ 環境教育に携わる人材育成の拠点活動</p> <p>環境教育普及のため、指導者を育成することを目的として、園内でプロジェクトWILD、プロジェクトWET等の環境教育の指導者講習会を開催します。また、円山動物園職員も参加し資格取得することによって、環境教育の知識を展示等に活用します。</p> <p>博物館学芸員、獣医、飼育実習生を積極的に受け入れます。</p>	<p>・20千円/年（経常）は年間2名分</p> <p>・当園職員のプログラム参加、各種実習生受入れを追記</p>

現 行	改正案	備 考
<p>(5) 園内動物病院プログラム</p> <p>日本初の公開型動物病院を活用した体験プログラムを実施する。獣医体験を通じて動物の生命から地球環境まで幅広いテーマで環境教育を行う。(18年度～)</p> <p>〈体験内容〉</p> <p>解説(20分)→診察・治療体験(30分)→吹き矢体験(15分)→骨格標本の比較解説(10分)</p>	<p>⑤ 園内動物病院プログラム</p> <p>獣医体験を通じて動物の生命から地球環境まで幅広いテーマで環境教育を行うことを目的とし、毎週土曜日に、日本初の公開型動物病院を活用した「動物病院プログラム」を実施します。</p> <p>小学生から大人までの各段階のメニューを盛り込んだワークブックを作成し、課題クリア型の病院体験を実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50千円/年(経常) ・ワークブックを用いたプログラムを実施することを追記
<p>(6) 園内施設の環境教材化の取り組み</p> <p>自然環境教育の教材として、園内の植栽を体系的に紹介した樹木マップを制作する。(19年度)</p> <p>自然エネルギーや資源循環型設備を導入し、園内の環境負荷の軽減を図り、その成果をわかりやすく解説し展示することで、動物舎だけでなく施設そのものを環境教材化する。(21年度～)</p>	<p>⑥ 園内施設の環境教材化の取組</p> <p>アジアゾーン、アフリカゾーンにペレットボイラー、太陽光発電装置、雪冷熱冷房を導入することによって、環境負荷の軽減を図ります。</p> <p>動物科学館において、園内施設での自然エネルギー活用の内容、効果、意義等を分かりやすく展示・解説します。</p> <p>動物園の森に生息する動植物を調査し、今後の気候の変化等の参考のため資料化します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア・アフリカゾーンの自然エネルギー導入を追記 ・動物科学館での集中展示・解説を追記 ・動物園の森の動植物の資料化を追記
<p>(7) 環境を考えるイベントの実施</p> <p>北国ならではの雪を活用した自然エネルギーのPRを地球温暖化により絶滅に瀕している動物たちと絡めたイベントとして園内で展開する。(19年度～)</p> <p>〈イベント内容〉</p> <p>真夏の雪祭り～美唄から30トンの雪がやってくる!～</p>	<p>⑦ 環境を考えるイベントの実施</p> <p>市民・企業・NPO・関連部局と共同で環境を考え、環境教育につながるイベントを開催し、これを通じて、地球環境の大切さを伝えるとともに、園内で利用する自然エネルギーを活用していることを広く伝えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・200千円/年(経常) ・アースデーを含む ・関連部局(環境都市推進部)との連携を追加
<p>(8) 遊びながら環境教育につながる教材の活用</p> <p>環境NPOが開発した環境教材を用いた遊びの実践や環</p>	<p>⑧ 遊びながら環境教育につながる教材の活用</p> <p>⑦に統合するため廃止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止

現 行	改正案	備 考
<p>境教育プログラムの一環として国際的なプログラムである「プロジェクトWILD・WET」、「ネイチャーゲーム」などの積極的活用を図る。(18年度～)</p> <p>〈イベント名〉 「サデーセミナー ヒグマカルタ」、「環境教育ワークショップ」</p>		
<p>(9) 円山レッドデータの編さん</p> <p>円山動物園が飼育・展示する希少動物（絶滅危惧種）をその生息域で起こっている地球環境の変化や絶滅危惧種に指定された理由とともに紹介する。(19年度～)</p> <p>〈提供方法〉 レッドデータの web 掲載、各種媒体への情報提供・データ活用</p>	<p>⑨ 円山レッドデータの紹介</p> <p>円山動物園が飼育・展示する希少動物（絶滅危惧種）の情報を、その生息域で起こっている地球環境の変化や絶滅危惧種に指定された理由とともに、ホームページや園内サインで紹介します。 情報は随時更新し、常に最新の情報を提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトル変更 ・具体的な紹介方法を明記
<p>(10) 展示評価方法（円山評価法）の確立</p> <p>展示や体験イベントにおいて環境メッセージやいのちの大切さを伝える際に、メッセージが入園者に正しく伝わっているかを検証する展示評価方法を確立する。(19年度)</p> <p>〈取組方法〉 「みんなのドキドキ体験」実施時に参加者に簡単なアンケートを実施、本来伝えたいメッセージが伝わっているかを検証する。</p>	<p>⑩ 展示評価方法（円山評価法）の確立</p> <p>展示や体験イベントにおいて環境保全の重要性やいのちの大切さを伝える際に、メッセージが入園者に正しく伝わっているか、大学との連携によりアンケートを実施・分析し、それに基づき効果的な展示等に改善します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携によるアンケート実施を追記

現 行	改正案	備 考
<p>2. 札幌市における円山動物園の役割(2) 北海道の生物多様性確保の基地</p>	<p>2. 北海道・北方圏の生物多様性確保の基地としての役割</p>	
<p>生物多様性の確保にあたっては、動物園を取巻く自然の生態系と調和し、失われつつある地元の自然を修復し再生する、より能動的な行動に移行することが重要である。</p> <p>北海道に固有の野生動物にあっても絶滅危惧種が少なくないことから、この繁殖と自然への復元に力点を置くことが北海道にある動物園の使命であり、高い飼育技術を持つ円山動物園がその指導的立場を担っていくことが求められている。</p> <p>北海道の中でも開発が進んだ札幌市は、特に野生動物の減少が著しい状況にあり、これらの自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関とともに横断的な連携で実行し、市民参加による環境保全活動を行う。</p>	<p>(1)計画内容</p> <p>動物園には種の保存の役割が求められています。円山動物園は、北海道の生物多様性確保の基地として、国際種情報システム機構（I S I S）を活用し、国内外の動物園との動物交換やブリーディングローンを行いながら、これまで培ってきた高い飼育・繁殖技術を用いて、絶滅危惧種を繁殖させ、種の保存に努めます。</p> <p>生物多様性の確保にあたっては、動物園を取り巻く自然の生態系と調和し、失われつつある地元の自然を修復し再生することが重要です。これらの自然の復元作業を市民・企業・大学等の研究機関とともに横断的な連携で実行し、市民参加による環境保全活動を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動物園の役割を追記 ・I S I Sの活用を追記
	<p>(2)成果指標</p> <p>保護した猛禽類を毎年3羽放鳥します。</p>	
<p>(1) 北海道の野生動物復元プロジェクト</p> <p>北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の動物園や研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥・野生復帰させることに挑戦する。</p> <p>動物園敷地に隣接する円山原始林や円山川、円山公園との連続性の中で、札幌の原風景を取り戻すためにエゾリス</p>	<p>(3)アクションプラン</p> <p>① 北海道の野生動物復元プロジェクト [500千円/年]</p> <p>保護した猛禽類について、飛行訓練を行い、放鳥の実績をつくとともに、繁殖生理についての研究を行います。</p> <p>シマフクロウを飼育し、繁殖を目指します。</p> <p>ニホンザリガニを飼育し、繁殖を目指します。</p> <p>動物園の森を復元し、オオムラサキなどの身近な動物の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オオワシの放鳥は削除 ・シマフクロウの飼育を追記

現 行	改正案	備 考
<p>やエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元作業を市民とともに取り組む。(18年度～)</p> <p>〈取組方法〉</p> <p>自然への復元作業を市民・企業・大学等の研究機関とともに横断的な連携で実行していくとともに、環境教育プログラムとして観察会などを行い、自然の生態系との調和の必要性や復元作業自体を市民に普及することを促進する。</p>	<p>生息環境を整備します。</p>	
<p>(2) 種の保存に向けた絶滅危惧種の園内繁殖</p> <p>国内外の動物園や研究機関と連携しながら、絶滅が危惧される動物を積極的に繁殖し、飼育下において個体数の維持、増加を図る。「ペア飼い」又は「群れ飼い」を原則とし、エンリッチメントにも十分配慮しながら、繁殖に適した飼育環境の確保に努める。</p> <p>また、個々の動物種が絶滅の危機に陥った生息域での状況を明確に説明し、環境保全に対する意識を喚起していく。(18年度～)</p>	<p>② 種の保存に向けた絶滅危惧種の園内繁殖〔8,000千円〕</p> <p>国内外の動物園や研究機関と連携しながら、絶滅が危惧される動物を積極的に繁殖し、飼育下において個体数の維持、増加を図ります。</p> <p>ホッキョクグマなどについて、他園との調整等、繁殖基地としての役割を果たします。</p> <p>アジアゾーン建設に合わせ、ユキヒョウ、レッサーパンダ等を複数ペアで飼育し、繁殖に適した飼育環境の確保に努めます。</p> <p>個々の動物種が絶滅の危機に陥った生息域での状況を明確に説明し、環境保全に対する意識を喚起します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左記のほか、I S I Sは1,200千円/年(経常) ・ユキヒョウペア・レッサーパンダペア導入経費のみ計上 ・ホッキョクグマ、ユキヒョウ、レッサーパンダを追記

現 行	改正案	備 考
<p>3. 札幌市における円山動物園の役割(3) 多様なメッセージを発信するメディア</p>	<p>3. 札幌市の施策のショーウィンドウとしての役割</p>	<p>・「ショーウィンドウ」の概念を導入</p>
<p>円山動物園を通じて札幌市の施策と連携した様々なメッセージを発信していく。</p> <p>動物をとおして「いのちの大切さ」を、子どもを育てる動物の行動からは「親子の愛」を、動物園を取り巻く円山の自然環境を守る行動からは札幌ひいては北海道の「地元の自然環境を思う気持ち」などのメッセージを伝える。</p> <p>また、観光資源として「さっぽろ観光」を、イベントを通じて「地産地消」「芸術」「市民との協働」「子育て支援」「福祉」といった様々な発信を行う。</p>	<p>(1) 計画内容</p> <p>円山動物園では、希少な動物を飼育し、繁殖していることから、動物の展示や解説を通じて「いのちの大切さ」、「親子の愛」、「環境の大切さ」等を伝えるほか、円山動物園には、多くの市民や観光客が訪れることから、関係部局と連携を図りながら、イベント等を通じて「子育て支援」、「市民との協働」、「福祉」等、札幌市の様々な施策の方針を伝える、いわば「ショーウィンドウ」としての役割を果たします。</p>	<p>・構成を変更</p> <p>・ショーウィンドウの概念を導入</p>
	<p>(2) 成果指標</p> <p>各イベントについて施策理解度 80%を目指します。</p>	
<p>(1) 心の癒しを必要とする方へのアニマルセラピー効果の実証</p> <p>札幌市立大学との共同研究により、動物とのふれあいや体験を通じたアニマルセラピー効果の検証を行い、円山動物園がもつ癒し効果を実証し提供していく。(19年度～)</p> <p>〈動物とのふれあいや体験の実践〉</p> <p>カンガルーの散歩、猛禽類のフライト、ウサギ・モルモットとのふれあい、動物病院入院動物観察 など</p>	<p>(3) 行動計画</p> <p>① アニマルセラピー効果の活用</p> <p>計画の中項目を「札幌市の施策のショーウィンドウとしての役割」と改めたため、本項目は「4⑤産学官連携の拡大」に編入</p>	<p>・項目削除</p>
<p>(2) 障がい者福祉のメッセージを発信するイベントの実施</p> <p>円山動物園を舞台に、障がいのある方の外出機会の確保</p>	<p>② 障がい者福祉のメッセージを発信するイベントの実施</p> <p>障がいのある方の外出機会の確保及び社会活動の促進</p>	

現 行	改正案	備 考
<p>や社会活動の促進につながるイベントを行う。あわせて園内のバリアフリー化を進める参考意見を収集する。(18年度～)</p> <p><イベント名> ハーティナイト</p>	<p>を目的として、障がいのある方とご家族・介護者を閉園後の夜の動物園に無料招待するイベント「ハーティナイト」を毎年2回開催します。</p> <p>イベント参加者から園内のバリアフリー化に関する意見を聴取するため、アンケートを実施します。</p>	<p>・現行のハーティナイトを拡充継続</p>
<p>(3) 子育て支援のメッセージを発信するイベントの実施</p> <p>円山動物園を舞台に、子育て支援のためのイベントを行う。その中で子育て中の親への相談指導を行うほか、高齢者ボランティアの「昔あそび」などによる三世代交流や道産食材を使ったメニューで地産地消の啓発を行う。(19年度～)</p> <p><イベント名> Kids zoo 動物園を子育てサロンに見立て、子供には読み聞かせ、親には子育てコーチング、アロマセラピー、マッサージなど</p>	<p>③ 子育て支援のメッセージを発信するイベントの実施</p> <p>子育て支援を目的として、区役所と連携し、動物園で実施する意義や特色を盛り込んだ内容で毎月1回、子育てサロンを開催します。</p> <p>「親子の絆」や「命の大切さ」を伝えるとともに園内をゆったりと観覧していただくことを目的として、妊娠中の女性とその子ども及び配偶者を「ハーティナイト」に招待します。</p>	<p>・現行の子育てサロンを継続</p> <p>・ハーティナイトを子育て支援メニューとして追加</p>
<p>(4) 生き生きとした高齢化社会のメッセージを発信するイベントの実施</p> <p>敬老の日に、高齢動物の健康と長寿を祝うためのイベントを開催し、親子三世代での来園を呼びかける。あわせて円山動物園の高い飼育技術と快適な飼育環境をアピールする。(19年度～)</p> <p><イベント名> どうぶつ敬老の日、カバの誕生会、カバの歯磨き、突撃パチリサービス</p>	<p>④ 生き生きとした高齢化社会のメッセージを発信するイベントの実施〔2,000千円〕</p> <p>敬老の日に長寿動物に特別メニューを提供し、高齢動物の健康と長寿を祝うとともに、高齢者にやさしい社会や生き生きとした高齢化社会の素晴らしさを感じられるイベントを開催します。</p> <p>長寿動物の長年の飼育経過や飼育技術についての解説看板を掲示し、動物への親しみや動物園への理解を深めます。</p>	<p>・看板制作費用 2,000 千円</p> <p>・現行のイベントを継続</p> <p>・解説看板の新規設置を追記</p>
<p>(5) 札幌の観光を発信するイベントの実施</p>	<p>⑤ 札幌観光の魅力を発信するイベントの実施〔4,000千円/</p>	

現 行	改正案	備 考
<p>多くの観光客を迎える「さっぽろ雪まつり」の開催時期に合わせ、冬の動物園を観光資源化するイベントを行う。あわせて園内に札幌のものづくりとブランド化を進める「札幌スタイル」認証商品を展示し、観光客へのPRを行う。(18年度～)</p> <p><イベント名> 円山動物園スノーフェスティバル</p>	<p>年]</p> <p>さっぽろ雪まつり期間を中心に、スノーフェスティバルを開催し、園内ににぎわいを創出することによって、冬の動物園を観光資源化し、札幌市の冬の魅力を高めます。</p> <p>「札幌スタイル」認証商品を展示し、観光客へのPRを行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スノーフェスティバルを継続開催
<p>(6) 市民芸術文化のメッセージを発信するイベントの実施</p> <p>円山動物園を舞台に市民による芸術作品を紹介するイベントを行う。市民参加により動物にちなんだ芸術作品を多数展示するとともに、動物を観察することの楽しさを広め人と動物の関係性を深める。(18年度～)</p> <p><イベント名> 円山動物園芸術祭（シニア層来園者増）</p>	<p>⑥ 市民芸術文化のメッセージを発信するイベントの実施</p> <p>「写生会」、「写真撮影講習会」、「音楽会」など、市民が参加し、楽しみながら動物を通じて芸術文化に親しむことのできるイベントを開催します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写生会等を新規開催
<p>(7) 市民ボランティア活動の発信</p> <p>札幌市における市民ボランティア活動の代表事例として動物園ガイドボランティアをより充実させるとともに、イベント、ふれあい指導、園芸・修繕、清掃等の活動全般に市民ボランティアを浸透させていく。(18年度～)</p>	<p>⑦ 市民ボランティア活動の発信</p> <p>円山動物園を舞台に市民のまちづくり活動を促進し、「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を目指し、ガイド、イベント、ふれあい指導、清掃等においてボランティア活動を実施します。</p> <p>ガイドボランティアについて、研修体制を整備し、レベルアップを図り、ガイドボランティアによるツアー受入れの充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドボランティアへの研修実施等を追記

現 行	改正案	備 考
<p>(8) 札幌のものづくりを発信するオリジナルグッズの開発 円山動物園オリジナルグッズを開発するにあたって、道産素材や地元企業の技術力をアピールできるようパートナーを選定し、円山動物園とともに札幌のものづくりを広く発信し産業振興に役立てていく。(18年度～)</p> <p><展開事例> 木のZOO、GEL-COOま など</p>	<p>⑧ 札幌のものづくりを発信するオリジナルグッズの開発 札幌のものづくり産業を振興し、発信するため、地元企業と連携し、円山動物園オリジナルグッズを開発します。</p>	<p>・目的等を明確化</p>
	<p>⑨ 公共交通の利用を推進するイベントの実施 円山動物園は都心部から近く、公共交通機関の利用により来園することができることから、地球環境にやさしい公共交通機関での来園を推進します。 また、円山動物園において、公共交通機関の利用を啓発するイベントを実施します。</p>	<p>・新規項目</p>

現 行	改正案	備 考
<p>4. 3つの柱（行動指針1） 「わたしの動物園」という視点からの行動</p>	<p>4. 「わたしの動物園」という視点からの行動</p>	
<p>札幌市民をはじめ円山動物園を訪れる入園者が、誇りをもって「わたしの動物園」と自慢してもらえるような動物園づくりを行う。</p> <p>感動体験型の展示（みんなのドキドキ体験）や地元の動物たちの飼育展示を通じて、親しみを持ってもらうとともに、市民・企業・研究機関などの参加機会を増やし「市民がつくる、市民の動物園」として定着させる。</p> <p>また、「動物園にいる動物を見に行く」から「動物園に預けている私の動物に会いに行く」という入園者との関係性の変化を引き出すためアニマルファミリー制度を導入する。</p>	<p>(1) 計画内容</p> <p>札幌市民をはじめとした来園者が誇りをもって「わたしの動物園」と自慢し、繰り返し来園してもらえるような動物園を目指します。</p> <p>感動体験型の展示（みんなのドキドキ体験）や北海道の動物たちの飼育展示等を通じて、親しみを持ってもらうとともに、市民・企業・研究機関等が参加する「市民がつくる、市民の動物園」として運営します。</p> <p>アニマルファミリー制度を積極的に展開し、円山ファンの増加を図るとともに、市民や企業の間で寄附文化を醸成します。</p>	<p>・アニマルファミリー制度の拡大等を記載</p>
	<p>(2) 成果指標</p> <p>平成 28 年度までに、アニマルファミリー20,000 人（札幌市民の 1%）を目指します。</p>	
<p>(1) アニマルファミリー制度</p> <p>市民が動物との絆をむすび動物への理解を深めるため、個別の動物毎の情報をきめ細かく発信する「アニマルファミリー制度」を構築する。市民が選択した動物について、あたかも家族のように深く知り学べる仕組みづくりを行い、資金面においてもエサ代などをファミリーに一部負担していただく体制を構築する。（20 年度）</p> <p>〈サービス内容〉</p>	<p>(3) 行動計画</p> <p>① アニマルファミリー制度の運用</p> <p>現行のアニマルファミリー制度は動物園側からの一方通行となっていること等の課題を踏まえ、市民と動物との絆を結ぶものであることを基本としつつ、より多くの皆さんに円山動物園を支援していただけるよう、制度の見直しを図ります。</p>	<p>・アニマルファミリー制度の見直しを明記</p>

現 行	改正案	備 考
<p>ニュースレター発信、誕生会等への招待、園内に氏名掲示、動画配信等</p>		
<p>(2) 感動体験型展示（みんなのドキドキ体験）の実施 体験や感動を通じて「いのちの大切さ」や「動物たちの生息域における環境問題」を学べる独自の展示法である段階的展示導入方式（円山メソッド）に基づき、「みんなのドキドキ体験」を実施し、動物たちの行動を間近で見たり、エサやりなど直接ふれあうことで、感動とともに高い学習効果を狙う。（18年度～） <ドキドキ体験メニュー例> ニホンザルの主食タイム、猛禽類のフリーフライト・鷹匠訓練、レディのミルクタイム</p>	<p>② 感動体験型展示（みんなのドキドキ体験）の実施〔0千円〕 体験や感動を通じて「いのちの大切さ」や「動物たちの生息域における環境問題」を学べる独自の展示法である段階的展示導入方式（円山メソッド）に基づき、動物たちの行動を間近で見たり、エサやりなど直接ふれあう「みんなのドキドキ体験」を実施します。 「みんなのドキドキ体験」メニューについては、定番メニューの拡充を進めるとともに、内容の充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキドキ体験の定番メニュー充実を追記
<p>(3) 北海道ゾーンの展開 地元で生息する動物にスポットをあて、身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道（北方圏）ゾーン」を設ける。地元重視の展示により、人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。（19年度～）</p>	<p>③ 北海道・北方圏ゾーンの展開〔9.施設整備で掲載〕 「北海道・北方圏ゾーン」について、北方圏に生息する動物を展示し、身近なところから環境問題を考えるきっかけとするとともに、北海道外から訪れた方々に北海道の自然の素晴らしさを体感してもらえるよう、大学等との共同研究を継続しつつ、説明表示の充実を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「北方圏」を追加 ・大学との共同研究、説明表示の充実を追記
<p>(4) 市民参加の機会の拡大 「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を実現するため、ボランティアやワークショップ、寄付など市民一人ひとりが楽しみながら様々なかたちで自分なりに動物園に関わる機会をつくることによって、より動物</p>	<p>④ 市民参加の機会の拡大 市民が円山動物園や動物に対し親近感を持ち、「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」として動物園を運営することができるよう、各種ボランティア、ワークショップ、市民動物園会議、寄附など市民一人ひとりが楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・字句修正

現 行	改正案	備 考
<p>や円山動物園に対する親近感が醸成され、「市民に愛され、自慢してもらえる動物園」となることを目指す。(18年度～)</p> <p>〈具体的な参画機会〉</p> <p>寄附、ボランティア、市民動物園会議委員、子どもワークショップ、看板制作、オオムラサキ越冬幼虫生息調査、スノーフェスティバル滑り台制作</p>	<p>しみながら様々なかたちで動物園に関われる機会を提供します。</p>	
<p>(5) 産学官連携の拡大</p> <p>共同研究や共催イベントなど事業の展開にあたっては、企業・大学等研究機関との連携により相乗効果やメリットを創出できるよう産学官連携を進めていく。(18年度～)</p> <p>〈具体的な連携機会〉</p> <p>企業広告、寄附、イベント連携、オリジナルグッズ開発、共同研究</p>	<p>⑤ 産学官連携の拡大〔2,000千円〕</p> <p>市内各大学の研究テーマに合わせ、獣医学、動物生態学、アニマルセラピー、獣舎デザイン、園内サイン、来園者の動向、生物多様性等について共同研究を実施します。</p> <p>市内企業のアイデアや協賛に基づき、環境教育を推進するイベント、オリジナルグッズの開発等を実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内サイン研究 500千円 ・獣舎デザイン 1,000千円 ・ビオトープ生物多様性 500千円 ・現状の取組に合わせた記載
	<p>⑥ ZOO STORYの発行</p> <p>市民が長年にわたり円山動物園に親しみをもって繰り返し来園するよう、円山動物園だけでしか得られないものを定期的に作成・発行することなどについて検討します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規項目

現 行	改正案	備 考
<p>5. 3つの柱（行動指針 2） 生物多様性の確保に向けた行動</p>	<p>5. 生物多様性の確保に向けた行動</p>	
<p>地球温暖化や開発、乱獲などの影響により野生動物はかつてない絶滅の危機に瀕している。人間の生活も多種多様な動植物の存在の上に成り立っていることを再認識し、地元の生態系から保全・回復させていくための取り組みを行い、その過程を通じて啓発を行う。</p>	<p>(1) 計画内容 円山動物園は、市民、企業、大学等と連携しながら、地元の生態系、札幌の原風景への復元作業を行い、その過程を通じて環境教育を推進します。</p>	<p>・ 字句整理</p>
	<p>(2) 成果指標 体験プログラムを毎年 10 本実施します。</p>	
<p>(1) オオワシ国際シンポジウムの開催 2008 年 7 月の主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）に合せ、オオワシ国際シンポジウムを開催し円山動物園のオオワシ・プログラムの取り組みを世界に発信する。また、オオワシ放鳥に向けてオオワシの営巣地であるロシア政府（サハリン州）や環境省、研究活動団体、道内動物園等との協力体制を構築する。（20 年度）</p>	<p>(3) 行動計画 ① オオワシ国際シンポジウムの開催 シンポジウム自体は継続するものでないため廃止</p>	<p>・ 廃止</p>
<p>(2) オオワシ・プログラムの取り組み（北海道野生動物復元プロジェクト） 北海道に生息する希少猛禽類のオオワシやシマフクロウを、円山動物園の持つ繁殖技術で繁殖させ、鷹匠技術で飛行訓練等を行い、自然界に放鳥・野生復帰させる取り組みを進める。（19 年度～）</p>	<p>② 北海道野生動物復元プロジェクトの取組〔9. 施設整備に掲載〕 猛禽類繁殖研究棟を建設し、繁殖技術を確立するとともに、保護鳥の飛行訓練を行い、希少種の放鳥計画に基づく放鳥の準備を行います。 シマフクロウを飼育し、繁殖の研究を行います。</p>	<p>・ 項目名変更</p>

現 行	改正案	備 考
<p>(3) オオムラサキ・プログラムの取り組み（北海道野生動物復元プロジェクト）</p> <p>札幌の原風景にあったオオムラサキやオニヤンマ、トノサマバッタなどの昆虫類の自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して実行するとともに、自然の生態系との調和や復元作業自体を市民に普及する。（19年度～）</p>	<p>③ 動物園の森復元プロジェクトの取組</p> <p>市民、企業、大学等と連携し、動物園の森から外来植物を駆除するとともに、ビオトープを活用し、札幌の原風景を取り戻します。</p> <p>オオムラサキの食草であるエゾエノキを植樹し、オオムラサキの観察会を実施します。</p> <p>ニホンザリガニの繁殖技術を確認し、動物園の森に放流します。</p> <p>動物園の森に生息する動植物を調査し、今後の気候の変化等の参考のため資料化します。（再掲）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (3) (4)を統合 ・ 森の資料化は再掲（1⑥）
<p>(4) ニホンザリガニ・プログラムの取り組み（北海道野生動物復元プロジェクト）</p> <p>札幌の原風景にあったニホンザリガニの自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して行い自然河川の生態系の調和や復元作業自体を市民に普及する。</p> <p>また、ウチダザリガニやアメリカザリガニといった外来性ザリガニの増殖の問題を市民に訴えていく。（18年度～）</p>	<p>④ ニホンザリガニ・プログラムの取組</p> <p>③に統合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ③に統合
<p>(5) 生物多様性を身近に感じるための特別展・体験プログラムの実施</p> <p>円山原始林、円山川と動物園の有機的連携を図り、園内で動物の生態を学んだあと、原始林で自然の動植物を観察したり、園内を流れる円山川で自然の昆虫やザリガニなどに触れたりなど、自然を生かした体験プログラムを実施する。また、園内各所にビオトープを設置して「自然体験ゾーン」として自然体験学習の拠点とする。（18年度～）</p>	<p>⑤ 生物多様性の大切さを学ぶための特別展・体験プログラムの実施〔500千円/年〕</p> <p>大学等との連携により、動物園の森等において、昆虫の観察会、ザリガニに関するイベント、ガイドツアー等の体験プログラムを実施するとともに、特別展等を開催します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体のイベント名を明記

現 行	改正案	備 考
<p>6. 3つの柱（行動指針 3） 自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動</p>	<p>6. 自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動</p>	
<p>円山エリアには、住民約 4 万人が居住する円山・宮の森・円山西町地区の住宅街をはじめ円山公園、円山原始林、北海道神宮、円山球場、大倉山シャンツェ、彫刻美術館など多くの人が集う施設が集積している。この豊かな自然と都会との中間地点にある利点を生かして、エリア内での回遊性を高め相乗効果を生み出すとともに、まちづくりの観点からも地域と連携した取り組みを行う。</p>	<p>(1) 計画内容</p> <p>円山エリアには、住民約 6.5 万人が居住する円山・宮の森・南円山地区の住宅街をはじめ飲食店、円山公園、円山原始林、北海道神宮、円山球場、大倉山シャンツェ、彫刻美術館など多くの人が集う施設が集積しています。</p> <p>この豊かな自然と都会との中間地点にある利点を生かして、エリア内での回遊性を高め、円山動物園にたくさんの方々に来園していただくよう取り組むとともに、円山エリアのまちづくり及び発展に貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集客施設に飲食店を追記 ・ 円山エリアへの貢献を追記
	<p>(2) 成果指標</p> <p>平成 28 年度までに誘導サインをリニューアルします。また、円山街歩きイベントを継続実施します。</p>	
<p>(1) 円山エリアの総合的な交通対策の検討</p> <p>動物園周辺には、円山公園、円山球場、陸上運動競技場などがあり、花見などの行楽時期や各施設のイベント時などは道路の渋滞や駐車場の混雑を招いているため、ピーク時の渋滞緩和や地下鉄から動物園までのアクセス整備や歩行者天国、周遊バス・タクシー等の新たな交通手段の確保等を検討する。(22 年度～)</p>	<p>(3) アクションプラン</p> <p>① 円山エリアの総合的な交通対策の実施【●千円】</p> <p>環境配慮及び渋滞緩和のため、円山動物園への来園には、公共交通機関を利用することを推進します。</p> <p>地下鉄円山公園駅から円山動物園まで安全に迷わず歩行することができ、わくわく感をもって来園することができるよう、円山地域住民や関係機関と協議の上で来園ルートを検討し、誘導・案内サイン等の充実を図ります。</p> <p>動物園周辺の渋滞緩和の観点から、地下鉄円山公園駅及び大通公園などからのラッピングシャトルバスの試験運</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関の利用促進、地下鉄から動物園までの案内等整備、シャトルバスの試験運行、南門の活用を追記

現 行	改正案	備 考
	行や南門の活用について検討します。	
<p>(2) 円山川の自然を取り戻すための取り組み</p> <p>園内を流れる円山川に生息するニホンザリガニの保護繁殖に取り組むとともに、円山川そのものの水質を回復させ、動物園内のビオトープとの一体化を図る河川改修に取り組む。上流における不法投棄の防止や生活排水による汚染の抑制など市民参加によりまちづくりの一環として取り組む。(19年度～)</p> <p><取組内容></p> <p>ニホンザリガニの生息調査、ビオトープの整備と河川改修、地域住民による河川清掃等の運動展開、ニホンザリガニの繁殖・放流</p>	<p>② 円山川の自然を取り戻すための取組</p> <p>園内を流れる円山川周辺に生息するニホンザリガニの保護繁殖を行い、動物園の森に放流します。(再掲)</p> <p>円山川の今後のあり方について、地域住民や関係部局と協議を行い、自然を取り戻すための取組を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンザリガニの放流を追記 ・円山川の回復は軌道修正
<p>(3) 円山エリアの総合的な自然エネルギー活用の検討</p> <p>自然エネルギーの利用にあたっては、円山動物園単独だけではなく、周辺施設を含めて、まとまった規模で導入することにより、より多くの環境負荷軽減の効果が期待できることから、関係部局等と連携し自然エネルギー活用の検討を行う。(22年度～)</p>	<p>③ 円山エリアの総合的な自然エネルギー活用の検討</p> <p>周辺施設を含めたまとまった規模での自然エネルギー導入は、用途、耐用年数、運営の違い、法律上の問題（供給制限）等から、実施困難</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・項目廃止
<p>(4) 円山エリア活性化のための街歩きイベントの実施</p> <p>円山動物園を核として、円山エリアのさまざまなレストランやカフェ、雑貨店などを結ぶ街歩きのイベントを民間企業と地元商店街及び参加店の協力により開催し、円山エリア全体の活性化を行う。(19年度～)</p> <p><アクションプラン></p> <p>動物園の来客と円山エリアの各店舗への来客を相互に</p>	<p>④ 円山エリア活性化のための街歩きイベントの実施</p> <p>円山エリアを拠点としている地域商店街と連携し、円山動物園を核として、レストラン、カフェ、雑貨店等を回遊する仕掛けづくりを行い、円山エリア全体の活性化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・100千円/年（経常）PR費用 ・地域商店街との連携を追記

現 行	改正案	備 考
<p>送りあい、その情報をブログを通じて口コミで広げることにより集客の相乗効果を狙う。(スタンプラリーイベントとブログマーケティングの融合)</p> <p><イベント名> 円山歩記 (2007年開催、15店舗が参加)</p>		
<p>(5) 地元地域への感謝イベントの実施</p> <p>円山動物園の再生には地元である地域の理解と協力が欠かせないため、日頃の感謝をこめて「円山地区」「南円山地区」「宮の森地区」の住民を対象に無料入園券を配布し、園内で園長の特別講演を開催する。(19年度～)</p> <p><イベント名> 地元感謝デー (10月6～8日)</p>	<p>⑤ 地元地域への感謝イベントの実施</p> <p>地域に愛され、連携を図りながら運営する動物園となるため、日頃の感謝をこめて、「円山地区」、「南円山地区」、「宮の森地区」の住民を対象に特別企画を実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 字句修正 ・ 特別企画実施を追記
<p>(6) 大倉山シャンツェ・彫刻美術館との連携</p> <p>円山動物園・大倉山シャンツェ・彫刻美術館はいずれも市民の教育文化施設、観光施設であり、地理的にも非常に近いことから、これら3施設が連携し一体となって集客を行うため、「3園館長会議」を設置しその方策を検討する。</p> <p><連携内容> 3施設をつなぐウォーキングコース、循環バス、イベントでの協力、相互PR、相互展示</p>	<p>⑥ 大倉山シャンツェ・彫刻美術館との連携</p> <p>民間施設との連携については、「札幌まちなめぐりパス」等を通じて実施しているため廃止する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目廃止
<p>(7) エリア周遊イベントへの積極的な参画</p> <p>札幌市内を周遊する街歩きイベントや旅行商品に積極的に参画することにより、円山動物園の集客に結びつけるとともに、円山エリア内の集客に貢献する。(18年度～)</p>	<p>⑦ エリア周遊イベントへの積極的な参画</p> <p>札幌市内を周遊する街歩きイベントや旅行商品に積極的に参画することにより、円山動物園の露出を高め、集客に結びつけるとともに、円山エリア内の集客に貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 字句修正